

平成15年度青森県漁船海難防止大会開催

この大会は、本県海域における漁船海難事故が依然として後を絶たず、特に一人乗り漁船の事故が多く、尊い人命と貴重な財産が失われており、救命衣を着用していれば助かったと思われる事故も多いことから、救命衣着用に対する意識の高揚と啓発を青森県下漁業関係者に呼びかけ、漁船海難事故の絶無を期することを目的に開催した。

大会では、始めに、これまで漁船海難事故で亡くなられた方々に対し黙祷を捧げ、植村正治会長が、「海難事故を減らすために努力を続けることは海に生きる者の責任、事故防止対策に取り組んでいきたい。」と主催者を代表しての挨拶を述べ、三村申吾青森県知事（清藤弘水産部次長代読）、上野正蔵青森県議会議長、堀田省吾青森海上保安部長がそれぞれ来賓の挨拶を述べた。

続いて、海難事故の救助活動で功績のあった岩崎村漁協組合員 菊池源悦氏、野牛漁協組合員 二本柳弘志氏、小泊救難所長 竹谷隆夫氏ほか所員一同に対し、植村正治会長から表彰状が授与された。

次に、青森海上保安部警備救難課救難係長 井原隆氏が、「船舶海難の発生状況と事故防止策等について」と題し、昨年6月1日から施行となった船舶職員及び小型船舶操縦者法等について講演を行い、救命衣の完全着用、携帯電話の所持励行、早期の救助要請、救命浮環の常備について訴えた。

また、県内11ヶ所の救難所を代表して、三沢市救難所事務局 河村義徳氏が、「救難所の活動・取組みについて」と題し、平成10年11月発足以来、毎年2～3回実施している実地訓練、仲間の漁業者が転覆・転落した海難事故で救助出動した事例等の活動について報告を行った。

更に、海難事故体験報告として、平内町漁協清水川支所漁業従事者 江戸英子氏が、「今年1月2日、平内町清水川沖でホタテ養殖作業中の漁船から船主が転落した海難事故」について、野牛漁協組合長 三國優氏が、「昨年10月13日、東通村尻屋崎沖で帰港途中のいか釣漁船が転覆し船主と乗組員が海中に投げ出された海難事故」について、それぞれ体験報告を行った。

最後に、海難事故絶無に関する決議を西北水産振興会長 山本政廣氏が朗読し、満場一致で決議が採択され、大会を終了した。

去る2月19日、青森市「ぱ・る・る」プラザ青森において、青森県漁船海難防止・水難救済会(植村正治会長)が主催となり、救命衣着用に対する意識の高揚と啓発を青森県下漁業者に呼びかけ、漁船海難事故の絶無を期することを目的に「平成15年度青森県漁船海難防止大会」を開催し、青森県下漁業者約500人が参加した。



清藤農林水産次長



植村会長



平内町漁協 江戸漁業従事者



三沢市救難所 河村事務局員



青森海保 井原救難係長



堀田青森海保部長



上野県議会議長



大会風景



西北水産振興会 山本会長



野牛漁協 三國組合長



小泊救難所長

竹谷隆夫氏
ほか所員一同

昨年9月から12月、小泊村において、三件の海難事故が発生し、自らの生業をなげうって直ちに救助に向かい、3名を無事救助した。



野牛漁協組合員

二本柳弘志氏

昨年10月13日、東通村尻屋崎沖合いにおいて、いか釣漁船の海難事故に際し、時化の中転覆していた同船を発見するや直ちに救助に向かい、海に投げ出されていた船主と乗組員を無事救助した。



岩崎村漁協組合員

菊池源悦氏

昨年10月13日、深浦町舳作崎沖合いにおいて、まぐろ釣漁船の海難事故に際し、時化の中舵折損で漂流していた同船を発見するや直ちに救助に向かい、船主と乗組員を無事救助した。

